

世界メンタルヘルスデー 映画上映会プロジェクト 2026

in **KOBE**

世界メンタルヘルスデー
～つながる、どこでも、だれにでも～

映画をみて
語り合い
しましょう!

#せかメン
映画



せかメン映画
公式サイト
最新情報は
こちら▶



人はつながりで
生かされる

知っているようで知らない
震災後のメンタルヘルス

リカバリーカレッジKOBE オープン講座

日時

9月27日(日)
13:15 受付開始

会場

**兵庫県立福祉センター
2階 大会議室**
(神戸市中央区坂口通2丁目1-1)
※JR「灘」駅より徒歩10分
阪急「王子公園」駅より徒歩10分

参加費

500円
※当日お支払いください

お申込み

右の赤枠内の
QRコードから
お申込みください

定員20名(先着順)



お問い合わせ先
rcchauchaukobe@gmail.com

主催

**リカバリーカレッジ
KOBE**

上映作品

『生きて、
生きて、
生きる。』

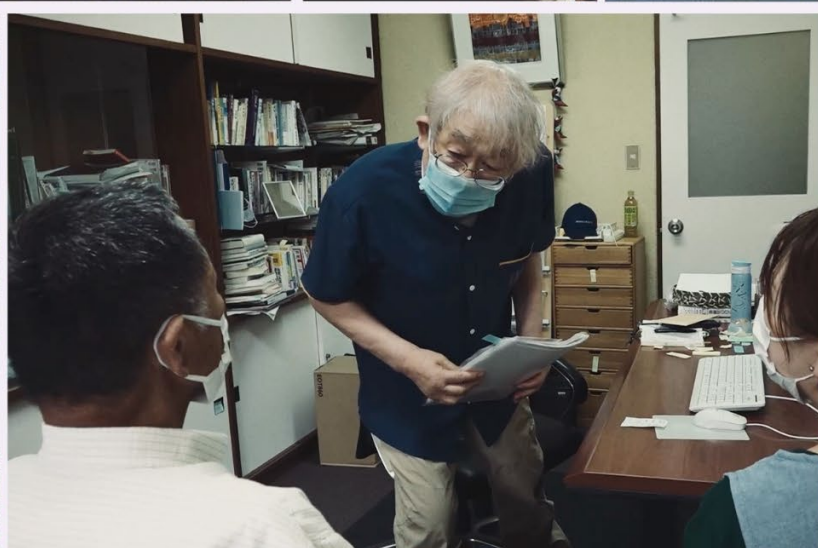
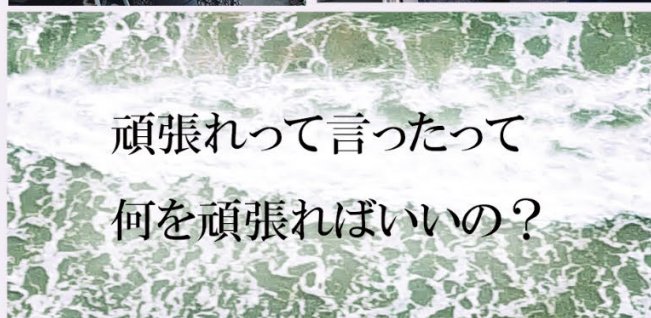
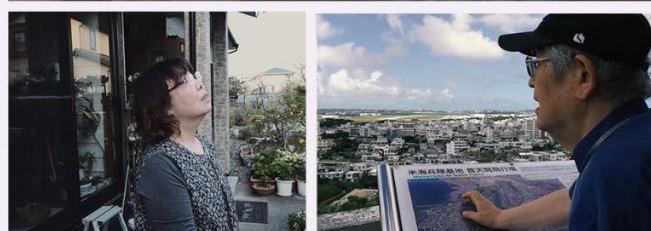
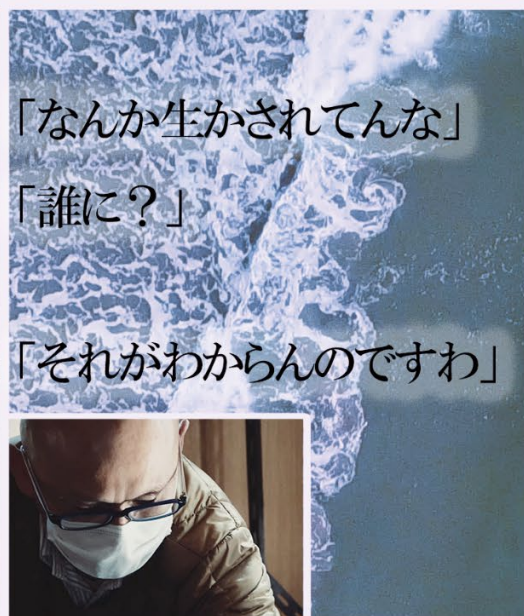


東日本大震災後の福島。

今もなお続く
見えにくい心の傷。

その現実を見つめながら、
「生きる」とは何かを問いかける
ドキュメンタリー映画。

『生きて、生きて、生きる。』



ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだ」という希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジングスカンを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。

津波で夫が行方不明のままでの女性、原発事故で避難中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。

震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日、多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。

「人間もつと泣かなきゃだめだと思う」

